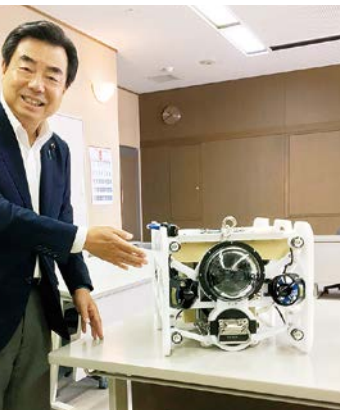


水中ドローン活用を實現

公明党 鈴木ひでし

開発を提言

「空の産業革命」と言われる、小型無人飛行機、いわゆるドローンは、農業、インフラ・建設、災害対応、物流、観光などの様々な分野で活用され始めており、社会にもだ



私の提言をもとに開発された水中ドローンを視察。有効に活用されることを期待します

いぶ浸透してきました。私が提言して以来、県でも「さがみロボット産業特区」の取組の一環として、これまで猿などの野生鳥獣追い払いのためドローンや、災害対応ドローンの実証・実用化にも取り組んできました。そんな中で新たに私が注目したのが「水中ドローン」です。

版オープンイノベーション」により、水中ドローンの開発に取組み、今回商品化に漕ぎつけましたので紹介します。

水中仕様は特区初

水中ドローンは、遠隔操作で水中を航行できる無人探査機の総称です。水中のインフラ点検やダイバーが入れない狭小空間の調査、更には養殖場などの水産資源の点検といった用途が考えられます。私は早くからこの水中ドローンの有用性に着目し、「さがみロボット産業特区」での開発・実用化を関係部署に提言してきました。

「さがみロボット産業特区」で初めてとなる水中ドローンは「FullDepth iVeUni300」という名称です。名前の通り深海300メートルまで潜行が可能です。本体内蔵バッテリーにも関わらず、小型（幅430mm×奥行650mm×高さ363mm）で軽量化が想定されていると

提言を受け県は、(地独)産業技術総合研究所と連携し、企業や大学等の各機関がもつ資源を最適に組み合わせる最短期間で商品化を目指す「神奈川県

また、操縦には市販のコントローラーを使用しているため、特別なトレーニングも必要ないこと

共生社会目指して

「さがみロボット産業特区」は、4月から第二期の計画期間に入り、取組を加速化させています。

私も県の取組を注視し「ロボットと共生する社会」の実現に向け、県民視点を忘れずに更なる提言を行っていきたくと考えています。



モットーは「まかせて安心! いのち守る!鈴木ひでし」。

第109代神奈川県議会副議長、県監査委員、公明党県議団団長などを歴任。現在、議会運営委員会(副委員長)、防災警察常任委員会に所属

HP <http://www.hideshi-suzuki.com/>